

【大会競技規則】

- ① 「2019年公認野球規則」「全日本軟式野球連盟規定学童の部」及び「IBA大会特別規則」を適用する。
- ② 大会使用球は「IBA公認C球」とし、バットは「JSBB」マーク入り「全日本軟式野球連盟公認」のものに限る。
- ③ ヘルメットは、「JSBB」マーク入りを最低7個用意し、打者、次打者、走者、ベースコーチ(監督・コーチは除く)が使用する事。
- ④ 捕手は、試合中はもちろんシートノック時も「JSBB」マーク入りのプロテクター・レガーズ・マスク・ヘルメット及びファールカップを着用する事(控えの捕手も着用を義務付ける)
- ⑤ ベンチは、若番が一塁側で攻守はメンバー表提出時に一塁側が選択権を持つコイントスにより決める。
- ⑥ シートノックは、5分間とするがゲームの進行状態等によっては行わない場合がある。
- ⑦ チーム編成
 - ・選手20名以内(0~27 31~99) 監督1名(30) コーチ2名(28 29)
 - ・代表 スコアラー等2名以内
 - ・選抜チーム 合同チームも参加が可能
 - ・保護者2名が健康管理(給水を含む)のためベンチに入ることができる。
- ⑧ メンバー表は4部提出

【IBA大会特別規則】

- ① 正式試合 試合方法
 - ・6回戦、トーナメント方式。
- ② タイムゲームの採用
 - ・1時間20分を超えて新しいイニングに入らず、均等回の得点をもって勝敗を決する。
 - ・但し、決勝戦のみタイムゲームを採用しない。
- ③ コールドゲーム
 - ・4回均等回以降7点差。降雨・日没の場合、4回均等回以降の得点差。4回均等回以前に試合続行不可能な場合は、特別継続試合を行う。
 - 尚、コールドゲームは決勝戦でも適用する。
- ④ 特別延長戦(タイブレーク)
 - ・無死満塁の状態とする。
 - ・打順は継続打順とし、前回最終打者を一塁走者、二、三塁走者は順次前の打者とする。
 - ・最大1イニング行い、勝敗が決まらなければ試合終了時に出場していたメンバー9人で抽選を行う。
 - ・通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。
- ⑤ コーティシーランナー(臨時代走)
 - ・打者走者、走者が負傷などで治療が長引く場合は、球審は相手チームに伝え、打順の前位者(投手は除く)を臨時代走として試合を進行させる。
- ⑥ 抗議のできる者は監督・当該プレイヤーのみとし、それ以外は認めない。

【IBA大会特別規則】

- ⑦ 監督またはコーチが、投手のところへ行く回数の制限
 - ・監督またはコーチが、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。
 - ※「協会」では交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。なお、他の守備についても、同一イニングに再び投手に戻れる。
 - 尚、監督またはコーチが投手のところへ行く回数は1試合3回までとする。但し投手交代時はカウントしない。
- ⑧ 守備タイム・攻撃タイムの回数制限
 - ・守備タイム・攻撃タイムともに1試合3回までとする。
- ⑨ 投手の投球回数制限
 - ・投手の投球回数は、一人一日6回までとする。
 - ・投球1球でも1回とカウントする。但し、登板試合のタイブレーク回（最大1回）は投球回数に含めない。タイブレーク回のみは登板は投球回数にカウントする。
 - ・大会は、ダブルヘッダーの試合を余儀なくされるので、投手、捕手を2名以上育成し大会に参加すること。

【大会グラウンド規則】

- ① 本塁投手間・塁間・両翼
 - ・本塁投手間16.00 M、塁間 距離:23.00 M、本塁2塁間:32.52 M、本塁両翼間:60 M
- ② 両翼・中堅を結んで外野のラインが引かれた場合
 - a. 打球が直接又はグラブや身体に当たってグラウンドに落下することなくホームランラインを超えた場合はホームランとする。
 - b. その他の打球（ゴロ等）で超えた場合はエンタイトルツーベースとする。
 - c. 送球が超えた場合はエンタイトルツーベースとする。

【その他】

- ① 勝ちあがった場合、次の試合が棄権となるチームの取り扱い
 - ・雨天順延等により、当該試合に勝利しても次の試合に参加できないチームは、当該試合の当日朝までに大会本部へその旨を申し出る事。その場合、当該試合は親善試合として行い、大会記録は申し出たチームの棄権と同様とする。
- ② 応援等の注意事項
 - ・少年野球であるので、鳴物等を使用した過度の応援は禁止する。
 - ・試合中における選手または審判員に対する個人攻撃及び好ましくない野次は禁止する。違反したときは、審判員または運営委員が注意を与えるが、注意を与えても改めない場合は退場させることもある。
- ③ 帯同審判員
 - ・帯同審判員は審判帽子・審判服を着用すること。尚、審判帽子・審判服については、各連盟・地域所定のもので可とする。

【安全対策及び心得】

- ① ユニフォームは正しく着る事。
指導者も選手と同じ服装でベンチに入る。
- ② 次打者はネクストバッターサークルでヘルメットを着用して待機する。(素振り禁止)
- ③ ネクストバッターサークルにバット等を放置しない。
- ④ ベンチ前でのキャッチボールは禁止する。
- ⑤ 走者が打者に対して球種、コース等を教える行為は禁止する。
- ⑥ グラウンドに唾を吐くことや、その他グラウンドマナーに反する行為や言動は禁止する。
- ⑦ ラフプレー等、危険を伴うプレーは絶対にしてはならない。
- ⑧ 相手を中傷するようなヤジを発したり、威嚇するような行為はしてはならない。
- ⑨ 攻守交代時は全力疾走で行う。